

道教委が初めて導入した校長の公募制度で余市紅志高に着任した生田仁志校長



余市紅志高の公募校長 生田仁志さん

ワインとの関わり核に

道教委が特色ある高校づくりのため本年度始めた公募校長の一人、生田仁志校長(60)が今月、余市紅志高に着任した。生田校長は「余市で盛んなワイン造りを核に地域の人と協働しながら、全国から生徒が集まる学校にしたい」と意気込みを語っている。

生田校長は道教育大札幌分校(当時)卒で、前任は札幌厚別高の校長。専攻は国語で、阿寒高校を振り出しに、札幌、標茶、浦河など各地を回り、標茶高では

生徒とともにエゾシカの有効活用のため、肉や皮、角の加工に取り組んだという。

公募校長は道内4人。余市紅志のほか、帯広三条、鹿追、鷗川の各高校に今春着任した。任期は原則5年。生田校長はワイン醸造が盛んな地場産業を踏まえたブドウの栽培実習などを通して「ワインの造り手や農家など地域の方々とながら経験を通して将来必要となる生きる力を生徒に身につけてほしい」と目標を話した。

(川村史子)

2020年(令和2年)2月21日(火)